

⑳ もうひとつの京都の推進と地域連携（もうひとつの京都の推進）

20年後に実現したい姿

【「もうひとつの京都」が世界有数の観光ブランドとして確立】

●「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」、「竹の里・乙訓」について、観光地域づくりをさらに深度化させ、それぞれの地域の住民の自信と誇りが高まるとともに、旅行者等に共感、愛着、満足度をもたらす「滞在型観光地」として、世界有数の観光ブランドとなっています。

【「もうひとつの京都」の交流人口が拡大し、地域経済が活性化】

●「もうひとつの京都」それぞれの地域において交流人口が拡大するとともに、観光と農林水産業、文化、福祉、商工業、まちづくりなど、幅広い分野との連携強化により、地域経済が活性化しています。

現状分析・課題

共通

- 「もうひとつの京都」の取組みでは、広域的に地域のコンセプトを明確にした「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」、「竹の里・乙訓」をエリア設定し、京都のブランド力を生かしながら、地域の資源を磨き上げ、地域が一体となった観光地域づくりを進めています。
- ㉑ 「もうひとつの京都」の取組みにより、集客・交流施設の整備やDMOの設立など、持続可能な地域振興のための基盤が整うとともに、府、市町村、地域の緊密な連携体制が構築されています。
 - ㉒ 「もうひとつの京都」のエリア内では、観光入込客数や観光消費額は、本取組が始まる平成25（2013）年と平成29（2017）年を比較すると、ともに1.3倍と増加しています。
- 観光消費が大きく見込めるコンテンツは限られるとともに、宿泊施設が少なく、域内のアクセスが良くないことから、滞在型周遊が低調で、一人あたりの観光消費額が伸び悩んでいます。（京都市を除く府域（もうひとつの京都）の観光消費額は府全体の5.2%）
- ㉓ 「もうひとつの京都」は、これまでの戦略的な情報発信や海・森・お茶の京都博の開催等により知名度は上がってきましたが、観光ブランドとしての確立には、更なる取組が必要です。

海の京都（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）

- ㉔ 観光入込客は、1,000万人を突破して、府全体の11.6%（10,109千人）を占めています。その大半（86.9%、8,784千人）が日帰り客となっています。
- 観光消費額は府全体の2.1%、外国人宿泊客数は1.6%となっています。
- ㉕ （観光消費額（平成29（2017）年）：府全体1兆1,884億円、海の京都エリア250億円）（宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体17,897千人、海の京都エリア1,325千人）（うち、外国人宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体3,612千人、海の京都エリア57千人）
- 外国人観光客の入込・宿泊数とも着実に増加していますが、地域に多い旅館で宿泊を取り込めていないなど、受け入れ環境の整備が課題となっています。（京都丹後鉄道のJR-WEST RAIL PASS（訪日外国人専用切符）の利用者数（平成29（2017）年）：52,863人）
- ㉖ 京都縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の開通をはじめとした交通基盤の整備や各市町のマスタープランに基づく観光戦略拠点の整備が進みましたが、飛躍的に人、ものの流れを増大させ、強いブランド力をもった観光圏づくりの取組を一層進める必要があります。

森の京都（亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市）

- ① 観光入込客は、府全体の11.3%（9,809千人）で、大半（94.9%、9,306千人）が日帰り客となっています。

観光消費額は府全体の1.4%、外国人宿泊客数は0.4%となっています。

- ② 円）（観光消費額（平成29（2017）年）：府全体1兆1,884億円、森の京都エリア161億円）（宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体17,897千人、森の京都エリア503千人）（うち、外国人宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体3,612千人、森の京都エリア15千人）

- ① 宿泊者数に占める外国人比率は、他の地域に比べて最も低くなっています。（平成29（2017）年：府全体20% 森の京都エリア2.9%）

- ② 森の恵みや文化を体感、発信する戦略的な交流拠点づくりや森の京都DMOによる地域資源を生かした観光コンテンツの造成が進められていますが、今後はそれらの拠点や観光資源を面的に結びつける取組みを進める必要があります。

お茶の京都（宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村）

- ① 観光入込客は、府全体の14.6%（12,701千人）で、大半（98.2%、12,469千人）が日帰り客となっています。

観光消費額は府全体の1.9%、外国人宿泊客数は0.4%となっています。

- ② 円）（観光消費額（平成29（2017）年）：府全体1兆1,884億円、お茶の京都エリア223億円）（宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体17,897千人、お茶の京都エリア232千人）（うち、外国人宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体3,612千人、お茶の京都エリア14千人）

- ① 多様な観光資源に恵まれていますが、宿泊施設が少ない状況です。（平成29（2017）年度末のホテル・旅館業等許可施設数は81件で京都市を除く府内の9.9%）

- ② お茶の京都DMOにより、地域資源の開発、着地型旅行商品の造成が進められていますが、拠点駅から観光地への移動手段が不十分な状況であり、回遊システムづくりなどネットワーク化の充実を図る必要があります。

竹の里・乙訓（長岡京市、向日市、大山崎町）

- ① 観光入込客は、府全体の2.6%（2,235千人）で、大半（99.3%、2,220千人）が日帰り客となっています。

観光消費額は府全体の0.07%、外国人宿泊客数は0.03%となっています。

- ② 円）（観光消費額（平成29（2017）年）：府全体1兆1,884億円、竹の里・乙訓エリア8億円）（宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体17,897千人、竹の里・乙訓エリア15千人）（うち、外国人宿泊客数（平成29（2017）年）：府全体3,612千人、竹の里・乙訓エリア1千人）

- ① 宿泊施設や知名度の不足等により、1人当たり観光消費額が府域全体で最も低い状況です。（一人当たり観光消費額（平成29（2017）年）：府全体13,681円、竹の里・乙訓エリア362円）

4年間の対応方向・具体方策

共通

「もうひとつの京都」各エリアの戦略拠点形成と快適な周遊環境の実現のため、DMOが観光地域づくりの総合プロデューサーとしての機能を果たせるよう、多様な主体と連携しながら、地域の豊富な資源を生かした体験型観光の拡大を通じて、持続的に観光地経営を進めます。

- 1 地域コミュニティの再生と、「もうひとつの京都」セカンドステージをはじめとする地域政策を、地域の実情を踏まえ一体的に展開します。
- 2 地域資源を生かした観光コンテンツづくりや旅行商品の開発・販売など、体験型観光を拡大します。
- 3 京阪神からの交通アクセスの改善や京都市発の観光周遊バスの運行等により、もうひとつの京都エリアへの送客を拡大します。
- 4 インバウンド誘客を促進するため、多言語ガイドの育成、滞在プログラムの開発・多言語化・キャッシュレス決済の推進及び旅館における受入環境の整備などの取組みを進めます。
- 5 伝統的建造物や古民家等を活用した多様な宿泊施設の創出や、周遊性を高める移動手段を確保します。
- 6 世界中の観光客から「目的地」として選ばれるよう、多言語による魅力的なホームページやSNS等の活用により情報発信力を強化します。

DMOが地域の総合プロデューサーとして、マーケティング、着地型旅行商品の開発・販売、戦略的なプロモーション、地域を語り案内できるガイドの育成等に取り組むとともに、DMO間での協力体制づくりや、隣接府県の観光協会やDMOと連携した観光商品づくりを進めます。

- 8 電動小型車両の導入やカーシェアリングなどを活用した観光周遊を進めます。
- 9 「日本茶800年の歴史散歩」や「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」など、日本遺産や「農泊食文化海外発信地域」の認定を通じ、地域のブランド化を進めます。

世界遺産や重要文化的景観等の周辺を中心に、京都府公共事業景観形成指針に基づきサインを統一し、平等院周辺や天橋立周辺で無電柱化を進めるとともに、地域の魅力向上に資する京都府景観資産の登録を拡大します。

海の京都（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）

- 11 海の京都DMOを中心に、市町や地域の民間事業者等と連携し、日本遺産や地域の食などの地域の資源を発掘し国内外に発信することにより、強いブランド力をもった観光圏形成を進めます。

京都舞鶴港クルーズ客をターゲットにした満足度の高いオプションツアーの開発や、京都市域はもとより、近畿圏内から海の京都エリアまでのアクセスの向上などにより、エリア内の交流人口を拡大します。

- 13 天橋立を中心とする地域の魅力を世界に発信するとともに、貴重な景観等を保全し、未来へ継承するための取組を図りながら、顕著で普遍的な価値の調査研究を進め、世界遺産登録をめざします。

森の京都（亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市）

- 14 森の京都DMOを中心に、豊かな森林資源による林業振興と付加価値の向上、森の恵みに育まれたブランド野菜、ジビエなどの食を通じた地域活性化やスポーツ体験など、大都市との近接性を生かした観光コンテンツづくりを進め、観光交流と移住・定住を進めます。

- 15 京都スタジアムを核として、観光、文化、スポーツなどの魅力ある地域資源を活用するとともに、新たな保津川下りコースの船着場を整備するなど、広域的な観光周遊を促す取組をDMO等と連携して進めます。
- 16 平安時代から都を支えてきた豊かな森の文化と保津川の水運文化の保存と活用を図り、日本遺産の登録をめざします。

お茶の京都（宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村）

- 17 お茶の京都DMOを中心に、市町村や茶業会議所と連携・協働して、交流拠点施設の整備や宇治茶をはじめとした地域資源の観光コンテンツづくりに取り組み、文化と産業の両面から地域づくりを進めます。

- 18 世界で「緑茶のトップブランドは「宇治茶」と認知されるよう、宇治茶のプレミアムブランド化を推進するとともに、「京都府宇治茶普及促進条例」を契機とした振興や宇治茶の世界遺産登録に向けた取組を展開し、新たな地域資源を掘り起こし、宇治茶カフェを京都市域や首都圏へも拡大しながら地域のブランド価値を引き上げます。

- 19 新名神高速道路などの道路網の整備や、JR奈良線複線化事業などの基幹交通の進捗に合わせ、地域資源の掘り起こしによるバスやカーシェアリングをはじめとした観光周遊を京都市やDMO等とも連携し促進します。

竹の里・乙訓（長岡京市、向日市、大山崎町）

- 20 豊富な歴史的背景、自然環境や日本有数の産地でもある筍などを観光資源とし、更に京都市に隣接しているという好条件を生かした戦略的な地域ブランド化により、観光交流・観光消費額を拡大します。

- 21 交通の利便性や歴史・自然資源を生かし、お茶の京都DMOとも連携した広域的な観光周遊を促す取組を進めます。